

第39回日本脊髄外科学会

ランチョンセミナー3

Swift♪を用いた

腰椎制動術の

臨床的インパクト

2024 6/13[未] 12:10~13:10

場所:大阪国際交流センター 🕻 会場

座長

水野 順一 先生

新百合ヶ丘総合病院 低侵襲脊髄手術センター

演者

谷 諭 先生

新百合ヶ丘総合病院 脊椎脊髄末梢神経外科

Swift Systemを用いた腰椎制動術

- 脊柱管狭窄症の新しい治療選択肢-

指定発言者

井須 豊彦 先生

釧路労災病院 脳神経外科 末梢神経外科センター

水野 正喜 先生

三重大学 脳神経外科 脊髓末梢神経低侵襲外科

土井 一真 先生

新百合ヶ丘総合病院 脊椎脊髄末梢神経外科

共催:第39回日本脊髄外科学会、株式会社アムテック





ランチョンセミナー3

Swift Systemを用いた腰椎制動術

一脊柱管狭窄症の新しい治療選択肢一



新百合ヶ丘総合病院 脊椎脊髄末梢神経外科

谷 諭 先生

本セミナーを通じて、Swift systemを用いた制動術で より多くの患者さんを救えるようになることを切に願っています。

腰部脊柱管狭窄症に対する治療法は、椎弓切除に始まり、除圧固定へとその選択肢を広げた。 除圧固定はより低侵襲化し、さらに、内視鏡手術の導入により、治療選択肢も増えてきた。一方、腰椎棘突起間 デバイス(IPD)を用いた腰椎制動術(LS)は、腰椎の過伸展を抑制するというユニークな治療戦略であるもの の治療効果に疑問が持たれ本邦では広く受け入れられなかった。しかし、LSは確かな治療方針のもとでは 重要で欠くことのできない治療法であると確信し、2020年に国産初のIPDとしてSwift systemを上市した。

使用開始後4年あまりで得られた特徴

- 脊椎の正常組織の破壊をほとんど伴わず、腰椎の可動域制限も過伸展のみである
- 従来品よりもlow profile化され、部品数も少ないため、短時間(15-30分)で簡単に設置が出来る
- 全身合併症で全身麻酔が危険な患者さんや抗血小板薬の服用中の患者さんでも手術が可能である
- 治療成績は7-80%の患者さんで満足が得られているようである
- 神経組織などに関連する重大な合併症は皆無に近い
- 内視鏡手術との併用や椎弓切除(形成)との併用も有用である

本セミナーでは、まず、Swiftシステムの開発の経緯と製品の紹介、手術の実際を供覧する。 その後に指定演者・発言の先生方より主に以下の主題を中心にお話をしていただく。

井須 豊彦 先生 患者さん、医師に対する負担なども含めた、本手術の有益性についてなど

水野 正喜 先生 本手術を局所麻酔で行うtips and tricksの紹介など

土井 一真 先生 多施設における短期的な治療成績の総括

● 本セミナーは脳神経外科領域講習の1単位が取得できます。

- 本会期中における領域講習の取得単位上限は4単位です。
- 領域講習の単位取得方法の詳細についてはプログラム・抄録集または学会HPにてご確認ください。

取得単位